

平成 25 年度 第 1 回 作井技術委員会 議事録

開催日時：平成 25 年 9 月 17 日（金）15：00～17：30

開催場所：国際石油開発帝石（株）34 階 大会議室 02

出席者：池田委員長、浦野、石井、武村、日野、原田、福嶋（直）、佐藤（敬）、長縄、菅野、古谷、福嶋（睦）各幹事、佐藤（亮）、坂井、伊木、後藤（牧代理）、藤田、大門、長久保、小川、中台、遠藤、岡本、岡田、岩本各委員、計 25 名（欠席 14 名）

1. 春季講演会 平成 25 年度の総括

1) シンポジウム講演の協会誌掲載原稿の執筆状況

→国際帝石と三井石開の講演は守秘義務上、掲載しないこと、その他は 5 件査読中、2 件執筆中であり、討論会の発言録は査読終了したことを報告した。

2) 学生優秀発表賞（生分解性樹脂 逸泥防止剤、早大）

→掲載原稿を査読し指摘事項を著者に照会中であること、委員長による講評は完成したことを報告した。

3) 協会誌投稿促進のための個人講演投稿推薦

→運営幹事が 7 件を選定し著者に投稿推薦したこと、内 3 件は投稿するとの返事を得たこと、内 1 件は辞退されたことを報告した。

4) 運営上の気づいた点（講演件数、時間配分、討論会など）

→7/22 の運営幹事会で指摘された事項以外に、委員から意見は出なかった。

2. 各分科会活動報告ほか

1) 大水深掘削技術分科会

→9/6 に 20 名で開催した。文献検索でヒットした大水深関連の SPE 文献を紹介した。

2) HSQE 分科会

→9/11 に 17 名で開催した。BOP パフォーマンスと Well Capping に関する 2 件のプレゼンを実施。出席者から Macondo 事故で何を教訓にするか、自分ならどうするか、ポイントを絞った勉強会をする提案があり、検討することになった。

3) 情報交換会（春季シンポジウム討論会で開催を提案したもの）

→キックオフとして、異業種 5 社と運営幹事、関連する委員だけで 8/21 に第一回会合を実施した。今回は異業種から質問を受け、委員が回答する形となった。JOGMEC から、技術ソリューション事業と合致しているので、次回から参加したいとの要望を受けた。次回は委員側が知りたいことを異業種側に問いかける形で年内に開催する方向で、どのように実施するか、運営幹事会で検討することになった。

3. 平成 25 年度の予定

1) 活動方針（案）

→昨年度まで「活動方針」と「要綱」があったが、当協会では要綱があるのは作井だけだったので、他の委員会と足並みをそろえるべく、二つの内容を網羅した活動方針に一本化した。提案した平成 25 年度活動方針(案)は承認されたので、添付資料から「案」を削除した。

2) 年間スケジュール（案）（来年度シンポジウムテーマ決定方法）

→提案した案は承認されたので、添付資料から「案」を削除した。なお、来年度シンポジウムテーマは、11 月中旬の運営幹事会で絞り込み、1 月中旬の運営幹事会で決定し、3 月の次回作井技術委員会では報告となるので、委員から希望テーマがあるなら、11 月中旬までに事務局へ知らせるよう要請した。

3) 予算（案）（執行は委員長決裁事項のため、決算は報告事項）

→提案した案は承認されたので、添付資料から「案」を削除した。なお、委員会後や情報交換会後の懇親会で使うネームプレートは幹事会社の備品を使いたくないので、作井技術委員会予備費で 50 個購入した。

議題 4：理事会報告

1) JAPT 理事会報告

→秋季講演会の内容などが紹介された。

2) 創立 80 周年記念出版誌について

→進捗が遅れ気味であることが報告された。

◇16:30 ～ 17:30：特別講演

演題：東京スカイツリーの建設（世界一の高さへの挑戦）

講演者：(株)大林組 土木本部

→建造中の垂直度確認に GPS による三角測量を利用したこと、日射で片側が伸びて傾くこと、東日本大震災は芯柱がない最も弱い状態で遭遇したが震度 7 を想定していたので耐えたこと、ベテラン揃いの安全環境部が不安全行動を停止させる絶大な権限を有していたことなど、石油鉱業にも大変参考となる、興味深い講演であった。

以上